

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：澤村・奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

平成29年度病害虫発生予察情報 注意報第1号

平成29年9月4日

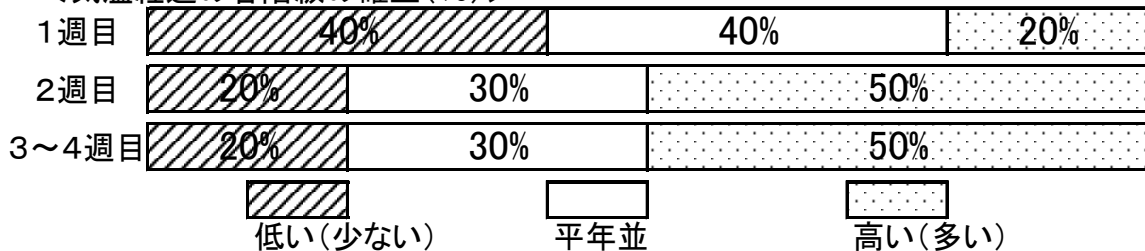
島 根 県

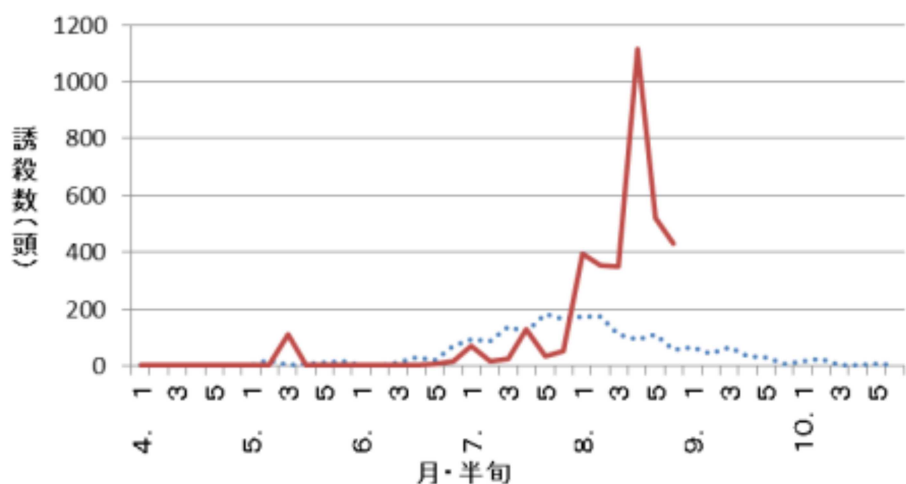
果樹を加害するカメムシ類の発生量が多く、カキ、ナシなどで被害が多発生する恐れがありますので注意報を発表します。現地では発生状況の把握に努めるとともに、発生園では適切な防除対策を講ずるよう指導をお願いします。

記

1. 病害虫名 果樹カメムシ類
2. 発生地域 県内カキ、ナシ、スモモ栽培地帯
3. 発生時期 9月上旬～
4. 発生量 多い
5. 注意報発表の根拠
 - 1) 予察灯（出雲市）でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの誘殺数は平年に比べ多く推移している。8月の予察灯での3種カメムシ類の累積誘殺数は3164頭（平年値714.1頭）と多く誘殺された（第1図）。
 - 2) 予察灯における3種カメムシ類の誘殺数はチャバネアオカメムシ1704頭（平年値411.5頭）、クサギカメムシ879頭（平年値216.1頭）、ツヤアオカメムシ581頭（86.5頭）とクサギカメムシ、ツヤアオカメムシの割合が高い（第2図）。
 - 3) 8月下旬の巡回調査ではカキでの被害果率は4.2%（平年値5.6%）と平年並みであるが、今後カキや無袋栽培のナシなどで被害が発生する恐れがある。なお、有袋栽培のナシでも果実の肥大にともない果実袋を通して加害される恐れがある。
 - 4) 9月の気象は第2週から4週までの気温が高く被害が長引く恐れがある。
 - 5) カキ、ナシ（無袋）の摘果作業はほぼ終わっている。
6. 防除対策および防除上の注意事項
 - 1) 山間地や山沿いの園ではカメムシ類の発生加害が多いので特に注意する。
 - 2) 薬剤の使用にあたっては、農薬使用基準ならびに本県農作物病害虫雑草防除指針を遵守する。

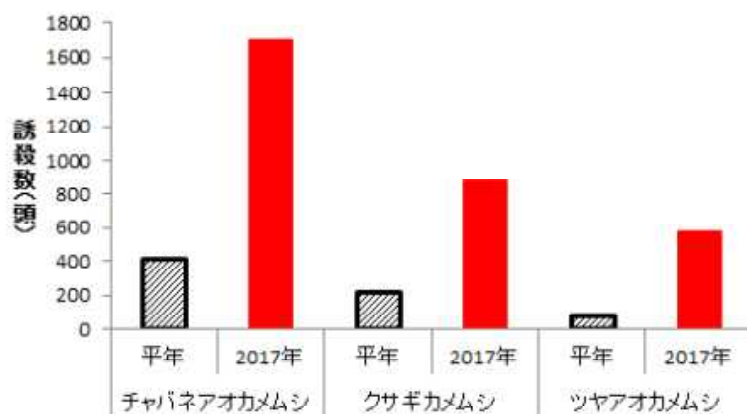
<気温経過の各階級の確立(%)>





第1図 予察灯における果樹カメムシ類3種の誘殺消長(2017年)

..... 平年 — 2017年



第2図 果樹カメムシ類3種の種別誘殺数(8月)

7. 薬剤による防除

1) 種類および濃度使用基準 (平成29年8月31日現在)

薬 剤 名	カ キ		ナ シ	
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	3日前/3回	2,000倍	前日/3回
アグロスリン水和剤	1,000~2,000倍	前日/3回	1,000~2,000倍	前日/3回
アドマイヤー顆粒水和剤	5,000~10,000倍	7日前/3回	5,000~10,000倍	3日前/2回
アディオオン乳剤	2,000~3,000倍	7日前/5回	2,000倍	前日/2回
ジノテフラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日/3回	2,000倍	前日/3回
スカウトフロアブル	1,500倍	7日前/5回	1,500倍	前日/5回
ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍	7日前/3回	2,000~4,000倍	前日/3回
テルスター水和剤	1,000~2,000倍	14日前/2回	1,000~2,000倍	前日/2回
MR. ジョーカー水和剤	2,000倍	14日前/2回	2,000倍	14日前/2回

薬 剤 名	スモモ
ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍 3日前/3回
ジノテフラン水溶剤(顆粒)	2,000倍 前日/3回

2) 散布時期および回数

発生に応じて数回散布する。

3) 散布量：10 a 当たり 液剤200~700ℓ